

## 2. 宗像市の鳥類相の概要

### (1) 宗像市の鳥類相の特徴

宗像市における鳥類の資料・文献は、宗像市による「平成6年度宗像市環境管理計画「基礎調査編」策定業務報告書」のほかは沖ノ島での調査レポートがある程度で、沖ノ島を除けば鳥類相は十分に解明されていないと言える。文献・資料・今回の調査結果・調査委員の観察記録をもとに宗像市で確認された鳥類の目録を作成した(表6-1)。宗像市で確認された鳥類の種数は、254種であり、市町村レベルでは比較的多い。これは沖ノ島での渡りの季節の調査記録が多いためである。なお、「平成6年度宗像市環境管理計画「基礎調査編」策定業務報告書」でまとめられた旧宗像市での目録では、15目34科108種となっており、玄海町、大島村と合併したことにより、海域、河川の河口域、島嶼が加わり、確認種数は倍増したことになる。

表 6-1 宗像市鳥類目録 (その1)

No.	分類		渡り 区分	頻度	繁殖	今回 調査	文献・ 資料等		
1	アビ目	アビ科	アビ	冬鳥	稀		●		
2			オオハム	冬鳥	少ない	○	●		
3			シロエリオオハム	冬鳥	少ない		●		
4	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥	普通	●	●		
5			ハジロカイツブリ	冬鳥	少ない	○			
6			ミミカイツブリ	冬鳥	稀	○			
7			アカエリカイツブリ	冬鳥	稀		●		
8			カンムリカイツブリ	冬鳥	少ない	○	●		
9			ミズナギドリ目	ミズナギドリ科	オオミズナギドリ	夏鳥	普通	●	●
10					ハイロミズナギドリ	迷鳥	稀		●
11				ウミツバメ科	ヒメクロウミツバメ	夏鳥	少ない	●	●
12	ペリカン目	カツオドリ科	カツオドリ	冬鳥	少ない	○			
13		ウ科	カワウ	冬鳥	普通		●		
14			ウミウ	冬鳥	普通	◎	●		
15			ヒメウ	冬鳥	普通	○	●		
16	コウノトリ目	サギ科	サンカノゴイ	冬鳥	稀	○	●		
17			ヨシゴイ	旅鳥	稀		●		
18			オオヨシゴイ	迷鳥	稀		●		
19			ミゾゴイ	夏鳥	少ない	○	●		
20			ゴイサギ	留鳥	普通	◎	●		
21			ササゴイ	夏鳥	少ない		●		
22			アカガシラサギ	旅鳥	稀		●		
23			アマサギ	夏鳥	普通	◎	●		
24			ダイサギ	留鳥	普通	◎	●		
25			チュウサギ	夏鳥	普通	◎	●		
26			コサギ	留鳥	普通	◎	●		
27			クロサギ	留鳥	少ない	○	●		
28			アオサギ	留鳥	普通	●	●		
29				コウノトリ科	コウノトリ	迷鳥	稀		●
30			カモ目	カモ科	コハクチョウ	旅鳥	稀		●
31					アカツクシガモ	迷鳥	稀		●
32					オシドリ	冬鳥	少ない	○	●
33					マガモ	冬鳥	普通	○	●
34		カルガモ			留鳥	普通	●	●	
35	コガモ	冬鳥			普通		●		
36	トモエガモ	冬鳥			少ない	○			
37	ヨシガモ	冬鳥			少ない	○			
38	オカヨシガモ	冬鳥			少ない	○			
39	ヒドリガモ	冬鳥			普通		●		
40	オナガガモ	冬鳥			少ない	○	●		
41	シマアジ	冬鳥			稀	○			
42	ハシビロガモ	冬鳥			普通		○		
43	ホシハジロ	冬鳥			普通		○		
44	アカハジロ	冬鳥			稀		○		
45	キンクロハジロ	冬鳥			少ない	○			
46	ウミアイサ	冬鳥			普通		○		
47	カワアイサ	冬鳥	稀		○				
48	タカ目	タカ科	ミサゴ	留鳥	普通	●	●		
49			ハチクマ	旅鳥	普通		●		
50			トビ	留鳥	普通	●	●		
51			オオタカ	留鳥	少ない	●	●		
52			アカハラダカ	旅鳥	少ない		●		
53			ツミ	旅鳥	少ない	○	●		
54			ハイタカ	冬鳥	普通		●		
55			ノスリ	冬鳥	普通		●		
56			サシバ	夏鳥	普通	●	●		
57			ハイロチュウヒ	旅鳥	稀		●		
58			チュウヒ	旅鳥	稀		○		
59			ハヤブサ科	ハヤブサ	留鳥	普通	●	●	
60				チゴハヤブサ	旅鳥	少ない		●	
61				コチョウゲンボウ	旅鳥	稀		●	
62	アカアシチュウゲンボウ	旅鳥		稀		●			
63	チョウゲンボウ	冬鳥		少ない	○	●			
64	キジ目	キジ科	ウズラ	冬鳥	稀		●		
65			ヤマドリ	留鳥	少ない	●	●		
66			キジ	留鳥	普通	●	●		

表 6-1 宗像市鳥類目録 (その2)

No.	分類		渡り 区分	頻度	繁殖	今回 調査	文献・ 資料等		
67	ツル目	ツル科	ナベヅル	旅鳥	稀		●		
68		クイナ科	クイナ	冬鳥	稀	○			
69			ヒクイナ	留鳥	少ない	○	●		
70			バン	留鳥	普通	●	●		
71			オオバン	冬鳥	少ない	○			
72	チドリ目		タマシギ科	タマシギ	留鳥	少ない	●	○	●
73	チドリ科	コチドリ	留鳥	少ない	●	●	●		
74		イカルチドリ	冬鳥	稀		○	●		
75		シロチドリ	留鳥	少ない		○	●		
76		メダイチドリ	旅鳥	稀		○	●		
77		ムナグロ	旅鳥	少ない		○	●		
78		ダイゼン	旅鳥	稀			●		
79		ケリ	冬鳥	少ない		○			
80		タゲリ	冬鳥	少ない		○			
81		シギ科	キョウジョシギ	旅鳥	稀			●	
82			トウネン	旅鳥	少ない		○	●	
83			ヒバリシギ	旅鳥	稀			●	
84			ヒメウズラシギ	迷鳥	稀			●	
85			ウズラシギ	旅鳥	少ない		○		
86			ハマシギ	冬鳥	少ない		●	●	
87			コオバシギ	旅鳥	稀			●	
88			ミユビシギ	旅鳥	稀			●	
89			コアオアシシギ	旅鳥	少ない		○	●	
90			アオアシシギ	旅鳥	少ない		●	●	
91			クサシギ	冬鳥	普通		●	●	
92			タカブシギ	旅鳥	少ない		○	●	
93			キアシシギ	旅鳥	少ない		○	●	
94			イツシギ	留鳥	普通		●	●	
95			ソリハシシギ	旅鳥	少ない		○		
96			オグロシギ	旅鳥	稀		○		
97			オオソリハシシギ	旅鳥	稀		○		
98			ダイシャクシギ	旅鳥	稀			●	
99			ホウロクシギ	旅鳥	稀			●	
100			チュウシャクシギ	旅鳥	少ない		●	●	
101			コシャクシギ	旅鳥	稀			●	
102	ヤマシギ	冬鳥	少ない		○	●			
103	タシギ	冬鳥	少ない		●	●			
104	アオシギ	冬鳥	稀		○				
105	ヒレアシシギ科	アカエリヒレアシシギ	旅鳥	少ない		○	●		
106	トウゾクカモメ科	トウゾクカモメ	旅鳥	稀		○			
107	カモメ科	ユリカモメ	冬鳥	少ない		○			
108		セグロカモメ	冬鳥	普通		●	●		
109		オオセグロカモメ	冬鳥	普通		○	●		
110		シロカモメ	冬鳥	稀		○			
111		カモメ	冬鳥	少ない		○			
112		ウミネコ	留鳥	普通		●	●		
113		アジサシ	旅鳥	少ない			●		
114		コアジサシ	旅鳥	少ない			●		
115		ウミスズメ科	ウミスズメ	冬鳥	稀		○		
116	カンムリウミスズメ		夏鳥	少ない	●	●	●		
117	ウトウ		冬鳥	稀		○			
118	ハト目	ハト科	カラスバト	留鳥	普通	●	●	●	
119			キジバト	留鳥	普通	●	●	●	
120			アオバト	冬鳥	少ない			●	
121	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	旅鳥	稀		●	●	
122			カッコウ	旅鳥	少ない		●	●	
123			ツツドリ	旅鳥	少ない		●	●	
124			ホトトギス	夏鳥	普通	●	●	●	
125	フクロウ目	フクロウ科	コミミズク	旅鳥	稀		●	●	
126			コノハズク	旅鳥	少ない			●	●
127			リュウキュウコノハズク	夏鳥	少ない	●	●	●	
128			アオバズク	夏鳥	少ない	●	○	●	
129			フクロウ	留鳥	普通	●	●	●	
130	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	夏鳥	少ない	○	○	●	
131	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	旅鳥	少ない		●		
132			ヒメアマツバメ	留鳥	少ない	○		●	
133			アマツバメ	夏鳥	少ない	○	●	●	

表 6-1 宗像市鳥類目録 (その3)

No.	分類		渡り 区分	頻度	繁殖	今回 調査	文献・ 資料等
134	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマショウビン	旅鳥	稀		●
135			アカショウビン	旅鳥	稀		●
136			カワセミ	留鳥	普通	●	●
137		ブッポウソウ科	ブッポウソウ	旅鳥	稀	○	
138		ヤツガシラ科	ヤツガシラ	旅鳥	少ない		●
139	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	留鳥	普通	●	●
140			コゲラ	留鳥	普通	●	●
141	スズメ目	ヒバリ科	ヒメコウテンシ	旅鳥	稀	○	
142			ヒバリ	留鳥	普通	●	●
143		ツバメ科	ショウドウツバメ	旅鳥	少ない		●
144			ツバメ	夏鳥	普通	●	●
145			リュウキュウツバメ	迷鳥	稀		●
146			コシアカツバメ	夏鳥	少ない	●	●
147			イワツバメ	留鳥	普通	●	●
148		セキレイ科	イワミセキレイ	旅鳥	稀		●
149			ツメナガセキレイ	旅鳥	少ない	○	●
150			キセキレイ	留鳥	普通	●	●
151			ハクセキレイ	留鳥	普通	●	●
152			セグロセキレイ	留鳥	普通	●	●
153			マミジロタヒバリ	旅鳥	稀		●
154			コマミジロタヒバリ	旅鳥	稀		○
155			ビンズイ	冬鳥	普通		●
156			セジロタヒバリ	旅鳥	稀		○
157			ムネアカタヒバリ	旅鳥	少ない		●
158		タヒバリ	冬鳥	普通		●	
159		サンショウクイ科	サンショウクイ	旅鳥	少ない		●
160		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	普通	●	●
161		モズ科	チゴモズ	旅鳥	稀		●
162			モズ	留鳥	普通	●	●
163			アカモズ	旅鳥	少ない	○	●
164			オオカラモズ	迷鳥	稀		●
165			レンジャク科	キレンジャク	冬鳥	少ない	
166		ヒレンジャク		冬鳥	少ない	○	●
167		ミソサザイ科	ミソサザイ	冬鳥	普通		●
168		ツグミ科	コマドリ	旅鳥	少ない		●
169			シマゴマ	旅鳥	稀		●
170			ノゴマ	旅鳥	少ない		●
171			コルリ	旅鳥	少ない		●
172			ルリビタキ	冬鳥	普通		●
173			ジョウビタキ	冬鳥	普通		●
174	ノビタキ		旅鳥	普通		●	
175	ハシグロヒタキ		旅鳥	稀		●	
176	サバクヒタキ		旅鳥	稀		●	
177	イソヒヨドリ		留鳥	普通	●	●	
178	トラツグミ		留鳥	少ない	○	●	
179	マミジロ		旅鳥	少ない		●	
180	クロツグミ		旅鳥	少ない		●	
181	アカハラ		冬鳥	少ない		●	
182	シロハラ		冬鳥	普通		●	
183	マミチャジナイ		旅鳥	少ない		●	
184	ノドグロツグミ		旅鳥	稀		●	
185	ツグミ		冬鳥	普通		●	
186	ウグイス科		ヤブサメ	夏鳥	普通	●	●
187			ウグイス	留鳥	普通	●	●
188			ウチヤマセンニュウ	夏鳥	少ない	●	●
189			コヨシキリ	旅鳥	少ない		●
190			オオヨシキリ	夏鳥	少ない	●	●
191			キマユムシクイ	旅鳥	稀	○	●
192			メボソムシクイ	旅鳥	少ない		●
193			センダイムシクイ	旅鳥	普通		●
194			ウスリームシクイ	旅鳥	稀		●
195		エゾムシクイ	旅鳥	普通		●	
196		クイタダキ	冬鳥	普通		●	
197	セッカ	留鳥	普通	●	●		
198	ヒタキ科	マミジロキビタキ	旅鳥	稀		●	
199		キビタキ	夏鳥	普通	●	●	
200		ムギマキ	旅鳥	稀		●	

表 6-1 宗像市鳥類目録 (その4)

No.	分類		渡り 区分	頻度	繁殖	今回 調査	文献・ 資料等
201	スズメ目	ヒタキ科	オオルリ	夏鳥	少ない	●	●
202			サメビタキ	旅鳥	少ない		○
203			エゾビタキ	旅鳥	普通		●
204			コサメビタキ	旅鳥	普通		●
205		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	夏鳥	少ない	●	●
206		エナガ科	エナガ	留鳥	普通	●	●
207		ツリスガラ科	ツリスガラ	旅鳥	少ない		○
208		シジュウカラ科	コガラ	迷鳥	稀		●
209			ヤマガラ	留鳥	普通	●	●
210			シジュウカラ	留鳥	普通	●	●
211		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	留鳥?	稀		●
212		メジロ科	メジロ	留鳥	普通	●	●
213			チョウセンメジロ	旅鳥	稀		●
214		ホオジロ科	シラガホオジロ	旅鳥	稀		○
215			ホオジロ	留鳥	普通	●	●
216			シロハラホオジロ	旅鳥	稀		●
217			ホオアカ	旅鳥	普通		○
218			コホオアカ	旅鳥	少ない		●
219			キマユホオジロ	旅鳥	稀		●
220			カシラダカ	冬鳥	普通		●
221			ミヤマホオジロ	冬鳥	普通		●
222			シマアオジ	旅鳥	稀		●
223			シマノジコ	旅鳥	稀		○
224			ノジコ	旅鳥	少ない		○
225			アオジ	冬鳥	普通		●
226	クロジ		冬鳥	普通		●	
227	シベリアジュリン		旅鳥	稀		○	
228	オオジュリン	冬鳥	少ない		○		
229	アトリ科	アトリ	冬鳥	普通		●	
230		カララヒワ	留鳥	普通	●	●	
231		マヒワ	冬鳥	普通		●	
232		ハギマシコ	旅鳥	稀		●	
233		アカマシコ	旅鳥	稀		○	
234		オオマシコ	旅鳥	稀		●	
235		イスカ	旅鳥	稀		●	
236		ベニマシコ	冬鳥	少ない		○	
237		ウソ	冬鳥	少ない		●	
238		イカル	留鳥	少ない	●	●	
239	シメ	冬鳥	少ない		●		
240	ハタオリドリ科	ニュウナイスズメ	旅鳥	稀		●	
241		スズメ	留鳥	普通	●	●	
242	ムクドリ科	ギンムクドリ	旅鳥	稀		●	
243		コムクドリ	旅鳥	少ない		○	
244		カラムクドリ	旅鳥	稀		●	
245		ムクドリ	留鳥	普通	●	●	
246	コウライウグイス科	コウライウグイス	旅鳥	稀		●	
247	オウチュウ科	オウチュウ	旅鳥	稀		●	
248	カラス科	カケス	留鳥	少ない	●	●	
249		カササギ	留鳥	少ない	●	●	
250		ホシガラス	迷鳥	稀		●	
251		コクマルガラス	冬鳥	少ない		●	
252		ミヤマガラス	冬鳥	普通		●	
253		ハシボソガラス	留鳥	普通	●	●	
254		ハシブトガラス	留鳥	普通	●	●	
		17目	53科	254種		69種	196種
255	帰化鳥	キジ科	コジュケイ	-	少ない		●
256		ハト科	ドバト	-	普通		●
257		チメドリ科	ガビチョウ	-	普通		●
258			ソウシチョウ	-	少ない		●

繁殖: ●繁殖確実と思われるもの ○繁殖の可能性があるもの ◎過去に繁殖の記録はあるが、現在はみられないもの  
 今回調査: ●重点調査地域で確認 ○任意調査で確認

以下に特徴的な環境ごとの鳥相を述べる。

### ①山地

宗像市は周囲を山地に囲まれているが、最高峰は孔大寺山の499mであり、多くは200～300mの低山である。これらの山地には大きな沢がほとんどなく、林内は比較的乾燥している。このため、鳥相は豊かとは言えず、繁殖する鳥類はヤマドリ、トラツグミ、イカル、カケスなどが見られる程度で、同じような標高の山地で繁殖するアオバト、ヤイロチョウ、クロツグミなどは確認されなかった。福岡県の低山で比較的普通に見られるオオルリも、宗像市では非常に少なく、繁殖していると考えられる観察例は城山での1例のみであった。宗像市の山地、特に金山から湯川山にかけての地域は十分な調査が行われておらず、生息する鳥類についてはよくわかっていないのが現状である。

近年外来種であるソウシチョウが侵入し、増加している。

### ②丘陵地

山地の鳥相は見るべきものが少ないが、そこから続く丘陵地は豊かな自然が残されている。山地から続く丘陵の谷部は水田や畑として利用され、谷の上部にはため池があることが多い。このような里山的な景観が、吉留、武丸、富地原、名残、朝町、野坂、大穂、村山田、用山、田島、多禮、吉田、池田、河東、山田と市域を取り囲むように見られる。特筆すべきなのはキビタキが多いことで、ちょっとした樹林地にもキビタキの囀りを聞くことができる。そのほか、キジ、フクロウ、ホトトギス、ウグイス、ホオジロなど身近な鳥が普通に生息している。里山生態系の頂点であるオオタカが近年見られるようになり、繁殖が確認された。今回繁殖の確認された地域以外でも観察されていることから、市内各地に繁殖している可能性が高い。また、森林性のサギ類であるミゾゴイも繁殖期に鳴き声が聞かれており、繁殖している可能性がある。

### ③釣川水系周辺の農耕地

釣川流域の大井、稲元、田久、富地原、朝町川流域の曲、光岡などでは比較的広い面積の農耕地が広がっている。多くの地域では春先に麦、梅雨前から稲作と二毛作を行っている。このような農耕地でヒバリ、セッカが繁殖し、一年を通して見られる。春には田植え前後の水田、秋には水の張った休耕田や稲刈り後の水溜りでタカブシギ、ウズラシギ、タシギ、コチドリなどが羽を休める。夏の水田ではアマサギ、チュウサギなどのサギ類が採餌し、タマシギが繁殖する。冬はチョウゲンボウ、ツグミ、ホオアカ、アトリ、ミヤマガラスなどが越冬する。

曲の長把池では池を取り囲むヨシ原でオオヨシキリが繁殖し、秋にはオオジュリン、ツリスガラなどがみられる。

### ④釣川水系・ため池・ダム

釣川は宗像の中心を貫流する2級河川で、宗像市の本土域全域を集水域とする。

釣川取水堰が防潮堰となっており、それより下流は感潮域となっている。皁月橋より下流の河口域は、干潮時には砂質の干潟が出現する。カモメ類、サギ類などが見られるが、年間を通して水鳥は多くない。春秋にはキアシシギやソリハシシギなどのシギチドリ類がみられるが、個体数は少ない。皁月橋から釣川取水堰までの間はやや泥質の干潟となり、冬には100羽前後のヒドリガモが越冬する。樽見川合流点付近の右岸側吉田山ノ上地区背後の樹林では小規模のアオサギコロニーがみられる。釣川取水堰から東郷橋までの間はゆるやかな流れとなっている。上多礼橋から河東橋までの区間は山田川が並行して流れており、川と川の間は笹藪で隔てられている。カルガモ、サギ類、カイツブリ、バンなどが見られる。多礼浄水場付近の釣川右岸の笹藪はサギ類が非繁殖期のねぐらとして利用する。東郷橋から武丸付近までは水深が浅く、数ヶ所の堰がある。兩岸の土手は車道や遊歩道となっており、川幅は広くない。年間を通してカイツブリ、サギ類、カワセミ、セキレイ類がみられ、冬季にはコガモ、クサシギ、アオジなどが越冬する。吉留付近からはさらに川幅が細くなり、最上流域は水路となる。このため溪流区間はほとんどなく、河川の上流域に生息するカワガラスやヤマセミは生息しないものと思われる。

ため池は市内各地に点在する。旧玄海町地域のため池は周囲を樹林に囲まれるところが多く、自然度が高いがカモ類は少ない。これは狩猟が行われるためと思われる。一方住宅地に囲まれた自由ヶ丘周辺の豆ヶ浦池、甘池、日の里の長浦池、蓮池、城西ヶ丘の古池、調整池、国道三号線沿いの王丸黒尾池などではマガモ、カルガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロなどが比較的多数越冬する。また、日の里の蓮池では池干しで水が抜かれるとコチドリ、イカルチドリ、タシギなどが飛来し、越冬する。

吉田貯水池、多礼貯水池は多くのカモ類が越冬する。もっとも多いのはマガモで、1,000羽前後がみられる。近年吉田貯水池ではトモエガモが100羽以上見られるようになった。トモエガモは世界的に個体数の少ないカモ類で、日本での定期的な越冬地は少ない。吉田貯水池は福岡県最大規模の越冬地と思われる。大井貯水池はカイツブリ、カワウが見られる程度でカモ類は少ない。

## ⑤玄界灘

鐘崎から神湊にかけての海岸の沖合、大島、地島にかけての海域は、玄界灘に面しているものの比較的穏やかな海域となっている。一年を通して観察されるのはウミネコで、大島や地島の崖地で繁殖するミサゴも周辺海域で採餌を行う。春から夏にかけて沖ノ島や北九州市白島で繁殖するオオミズナギドリの群れが見られることがある。冬はカモメ類、カイツブリ類、オオハム類、ウ類、ウミアイサ、ウミスズメなど多くの海鳥が観察される。

## ⑥大島・地島

大島は島の規模が大きく、照葉樹林、牧場、水田、貯水池など多様な環境が存在する。福岡県沿岸の島嶼ではもっとも鳥相が豊かで、カラスバトの生息密度が



高いほかサシバ、アオバズク、コゲラ、ツバメ、ヤマガラ、ホオジロ、スズメなどが繁殖する。島北側の海岸ではミサゴやハヤブサが繁殖する。冬季は宗像市の本土域とほぼ同様の種類が越冬する。

地島は島の大部分が照葉樹林で覆われており、カラスバトが生息するほか、コゲラ、ウグイス、ヤマガラなどが繁殖する。春にフクロウの声が聞かれたことがあり、繁殖している可能性もある。島東側の崖地はミサゴの繁殖密度が非常に高いほか、ハヤブサが繁殖する。冬にはヒメウ、ウミウが多い。

大島、地島とも春・秋には渡り途中に立ち寄る鳥類が観察しやすく、多くの渡り鳥を観察することができる。

### ⑦沖ノ島・小屋島

沖ノ島は玄界灘に浮かぶ孤島のため、特異な鳥相がみられる。沖ノ島の代表種はオオミズナギドリで、島内全域の林床に穴を掘り、10万羽以上が繁殖する。原生林ではカラスバトの生息密度が高い。本来南西諸島に分布するリュウキュウコノハズクが隔離的に分布しており、比較的高い密度で生息しているが、生態については不明な点が多い。原生林ではトビ、メジロ、シジュウカラも繁殖する。海岸付近の低木林や草地ではウチヤマセンニュウが繁殖する。崖地ではハヤブサが繁殖しており、ミサゴも繁殖している可能性が高い。以前はウミウの繁殖も確認されていたが、近年は繁殖していないものと思われる。冬季の調査記録は少ないが、留鳥のカラスバトのほか、キクイタダキ、シロハラ、ミソサザイ、ジョウビタキなど一般的な冬鳥がみられるが、個体数は少ない。港の防波堤にはウミネコ、オオセグロカモメなどのカモメ類が多数見られる。春・秋には渡り途中のさまざまな種が観察され、宗像市ではここでのみ記録されている種も多い。

小屋島では春にカンムリウミスズメが繁殖し、5月に繁殖を終えると入れ替わるようにヒメクロウミツバメが飛来し、繁殖する。ヒゲスゲとわずかな低木しかない岩礁の島のため、他に繁殖する種はないが、年によりウチヤマセンニュウが繁殖することがある。小屋島には磯釣り客が多く訪れ、釣り客が帰ると沖ノ島からハシブトガラスが飛来し、残されたゴミや撒き餌をあさる。

## (2) 宗像市を代表する自然環境と鳥相

重点調査地域の結果は表6-2に示すとおりである。以下に各地点の概要を述べる。

### ①城山

城山では、6目19科29種の鳥類が確認された。城山は標高369mで、登山道が整備され、登山客も多い。

キジバト、コゲラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ハシブトガラスは年間を通して観察され、繁殖していると思われる。夏季にはホトトギス、ヤブサメ、キビタキ、オオルリ、サンコウチョウなどの夏鳥が観察され、冬季はアカハラ、シロハラ、マミチャジナイなどの大型ツグミ類やアオジ、クロジなどのホオジロ類、ミソサザイ、キクイタダキなどの冬鳥が観察された。



## ②武丸

武丸周辺台地では8目21科31種の鳥類が確認された。武丸の調査地は新立山の山麓に位置し、緩やかな尾根の樹林は植林として、谷部は農耕地として利用されている。コゲラ、ヒヨドリ、ウグイス、セッカ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、ハシブトガラスなどが年間を通して観察され、繁殖しているものと思われる。また、夏鳥のホトトギス、キビタキ、サンコウチョウも比較的個体数は多い。

## ③名残

名残では7目19科31種の鳥類が確認された。調査地は名残山から北西に伸びる丘陵地で、周囲は宅地として開発されている。間口の広い谷地となっており、畑と民家が点在する。背後の樹林は広葉樹林、植林、竹林となっている。

オオタカが確認されたほか、フクロウ、アオゲラ、キビタキも繁殖するなど、大規模な住宅地に囲まれた緑地としては豊かな鳥相を保っているといえる。冬季にはトラツグミ、キクイタダキ、ミヤマホオジロなど里地的環境で見られる種がよく見られる。渡りの季節にはクロツグミ、ヤブサメなどの渡り鳥が確認された。

## ④許斐山

許斐山では、9目24科39種の鳥類が確認された。許斐山は標高271mの里山で、王丸の登山口から登るとスギ・ヒノキの人工林、竹林や広葉樹林があり、小鳥類が多く観察された。また、外来種のソウシチョウは中腹で多くみられ繁殖しているようだ。

カイツブリは麓の池で営巣し、繁殖している。広葉樹林では、キジバト、フクロウ、アオゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ウグイス、キビタキ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロなどが繁殖しているものと思われる。夏季にはツバメ、ヤブサメ、キビタキ、オオルリ等の夏鳥、冬期は、ノスリ、ミソサザイ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、キクイタダキ、アオジ、クロジなどの冬鳥が樹林で観察された。

## ⑤釣川中流（上）

釣川中流上部では6目19科35種の鳥類が確認された。西側に県道、南側に JR鹿兒島本線、東側に釣川沿いの道に囲まれた三角形の水田地帯。自動車の交通量や人通りも多く、一見鳥は少なそうな環境だが、予想以上の種数を確認できた。年間を通して確認された種数も多く、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラスなどが観察された。これらは当地域または近辺での繁殖の可能性がある。

## ⑥多礼

多礼貯水池周辺では8目23科33種の鳥類が確認された。南部は住宅地が

迫っているが、東部には吉田貯水池、多礼貯水池がある丘陵地であり、小池が点在し、農耕地、果樹園もあって鳥類の生息環境としては、比較的良好である。

年間を通してキジバト、コゲラ、ヒヨドリ、ウグイスなどが観察された。春、秋の渡りの時期は、サンショウクイ、エゾムシクイ、キビタキなどが確認され、ミヤマホオジロ、カシラダカ、アオジなどのホオジロ類は越冬しているものと思われる。

#### ⑦孔大寺山

孔大寺山では9目22科40種の鳥類が確認された。孔大寺山は宗像市の最高点で、標高は499mである。宗像側斜面はスギ・ヒノキ植林が多いが、孔大寺神社周辺や山頂一帯は広葉樹林が残されている。

サシバ、アオゲラ、トラツグミ、キビタキ、カケスなどが繁殖する。孔大寺神社下方の水場付近ではオオルリ繁殖の可能性もあるが、今回の調査では確認されなかった。山頂付近では外来種のソウシチョウが確認されたが、現在のところ生息密度は高くない。冬にはミソサザイ、ルリビタキ、クロジ、マヒワなどのほか、冬季の記録は稀なコマドリも確認された。春秋には渡り途中のツグミ類やムシクイ類などがみられる。

#### ⑧釣川中流（下）

釣川中流下部では9目22科40種の鳥類が確認された。当地域は釣川と山田川に隣接しており、ブッシュに覆われた土手により隔てられている。釣川沿いに県道が通っており、日中はかなりの交通量がある。東側は広葉樹林と水田地帯になるが、川中央の土手がブラインドとなり比較的静かな環境となっている。カイツブリ、カルガモ、ヒバリ、ホオジロ、ハシブトガラスが年間を通して観察され、繁殖しているものと思われる。また、当地域の下流の橋ではイワツバメが集団繁殖している。

#### ⑨樽見川

樽見川上流では、5目19科37種の鳥類が確認された。樽見川上流部は、中心を樽見川が流れ、田と里山に囲まれた谷戸を形成しており、春、秋には、渡り鳥が比較的多く観察された。農耕地ではホオジロ類、河川ではセキレイ類が観察された。また、牧場横からあがる棚田跡は自然林が広がり、オオルリ、キビタキ、エゾビタキなどの渡り鳥が多く観察された。

キジバト、ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワなどが一年を通して観察された。これらは調査地域及び付近の里山で繁殖しているものと思われる。里山の環境で、オオタカ、ハヤブサのワシタカ類も観察された。冬季には、ジョウビタキ、シロハラ、キクイタダキ、ミヤマホオジロなどが自然林や農耕地で観察された。

#### ⑩さつき松原

さつき松原では6目20科33種の鳥類が確認された。玄界灘に面した、釣川の北東部に位置するところであり、大半が松林、広葉樹林で、南東部に農耕

地が含まれる。

林内ではコゲラ、サンショウクイ、ヒヨドリ、マミチャジナイ、カラ類などが見られ、農耕地ではサギ類、モズ、ジョウビタキ、ノビタキなどが観察された。海岸ではミサゴ、ハマシギ、セグロカモメなどが見られた。

#### ⑪釣川下流

釣川下流では10目24科37種の鳥類が確認された。調査地域は釣川の河口近くであり、北東部は農耕地と防風林としての松林が一部含まれ、整備は比較的広い農耕地があつて、さらにその西側には宇生神社がある。

釣川ではカイツブリ、ヒドリガモ、イソシギ、ウミネコなどが見られ、冬季、春季にはミサゴがハンティングするのが観察された。農耕地ではヒバリ、セッカ、ノビタキなどが観察された。また、宇生神社周辺ではコゲラ、シロハラ、マミチャジナイなどが観察された。臯月橋ではイワツバメが営巣していると思われ、多数のイワツバメが橋の下を出入りするのが観察された。農耕地近くの電柱ではカササギの巣が見受けられた。

#### ⑫遠見山

地島の遠見山周辺では、6目20科39種の鳥類が観察された。地島は日本海側に位置する島嶼のため、春、秋には多くの渡り鳥が飛来する。調査地点は、自然林、畑、小川、海岸と変化に富んだ地形で、多くの渡り鳥が通過しているものと思われる。海岸部の藪ではオオヨシキリやホオジロ類、樹林ではツグミ類、ヒタキ類などの渡り鳥が観察された。カラスバトは小学校下の自然林の中でよく鳴いていた。調査地域で繁殖しているものと思われる。また、コゲラ、ヒヨドリ、ヤマガラ、メジロなども観察機会が多く、繁殖しているものと思われる。ミサゴは、島の北側海岸部で繁殖しており、上空を帆翔する姿がよくみられた。ハイタカやハヤブサなどのワシタカ類もみられた。

#### ⑬御嶽

大島の御嶽では、6目18科35種が確認された。御嶽は大島の最高地点で、標高は214mである。中津宮からの登山道は広葉樹林で覆われている。島の北側は放牧場と接しており伐開されている。

照葉樹林ではカラスバト、コゲラ、ヤマガラ、メジロなどが生息する。5月の調査時にはキビタキが確認されたが、これは渡り個体ではなく、当地で繁殖するものと思われる。春秋には渡り途中の小鳥類が多く見られるほか、タカ類やアマツバメ類が上空を通過する。冬はシロハラ、ミヤマホオジロなどの樹林性の冬鳥がみられる。

#### ⑭大島北西

大島北西部では、8目21科41種の鳥類が確認された。

大島は日本海側に位置する島嶼のため、春、秋には多くの渡り鳥が飛来する。調査地域は谷部が農耕地となっており、渡り鳥の観察に適した環境となっている。水田やその周辺の藪ではホオジロ類、樹林ではツグミ類、ヒタキ類、ムシ

クイ類など多くの小鳥類が観察された。広葉樹林ではカラスバトをはじめ、ヒヨドリ、コゲラ、ヤマガラ、メジロなどが一年を通して観察された。これらは調査地域で繁殖しているものと思われる。カラスバトは比較的個体数が多い。冬季にはノスリ、ミソサザイ、ジョウビタキ、シロハラ、ミヤマホオジロなど里山的な環境で越冬する鳥類が観察された。

#### ⑮草崎半島

草崎半島では、7目21科29種の鳥類が確認された。宗像市北西部に位置する玄界灘に面した半島である。半島中心部は低木が密生しており、春、秋の時期には多くの渡り鳥が飛来すると思われるが、道が整備されておらず、外周が私有地や工事などで立ち入り禁止となっているため、観察地点としては宗像神社周辺、南部の農耕地、南西部の海岸、東部の漁港周辺にとどまった。

#### ⑯吉田（補足）

補足調査は、鎮国寺周辺で実施した。鎮国寺周辺では、6目17科27種が確認された。鎮国寺周辺は、保存樹が多く高木に覆われているためヤマガラなどの里山の小鳥類が多く観察された。コゲラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤマガラ、ホオジロが1年を通して観察された。これらは調査地域で繁殖しているものと思われる。また、冬季はエナガやメジロ、コゲラなどの混群がよく観察された。

夏鳥ではツバメやイワツバメ、ヤブサメ、冬鳥ではジョウビタキ、ツグミ、シロハラ、キクイタダキ、ミヤマホオジロなどが観察された。

#### ⑰沖ノ島

沖ノ島では合同調査として春季と夏季に調査を実施した。2回の調査で10目26科59種が確認された。調査を行ったのは港周辺と一ノ岳山頂（灯台）までの登山道沿いと小屋島である。

春季は渡り鳥を中心に55種が確認された。ミゾゴイ、コルリ、クロツグミ、センダイムシクイなど日本では夏鳥として渡来する種のほか、ヤツガシラ、シマゴマ、ウスリムシクイ、キマユホオジロなど日本では稀な旅鳥も多くの種が確認された。小屋島には昼と夕方上陸し、カンムリウミスズメのコロニーとなっているヒゲスゲ群落一帯で複数鳴いているのを確認した。

夏季は留鳥、夏鳥など15種が確認された。クロサギ、トビ、ハヤブサ、リュウキュウコノハズク、カラスバト、アマツバメ、イソヒヨドリ、ウチヤマセンニュウ、メジロ、ハシブトガラスは沖ノ島で繁殖しているものと思われる。夜明け前には沖津宮周辺でオオミズナギドリの飛び立ちを観察した。小屋島には夜間上陸し、ヒメクロウミツバメを確認した。

表 6-2 重点調査地域調査結果（その1）

	調 査 地 域																
	城山	武丸	名残	許斐山	釣川中流(上)	多礼	孔大寺山	釣川中流(下)	樽見川	さつき松原	釣川下流	遠見山	御嶽	大島北西	草崎半島	吉田	沖ノ島
1 シロエリオオハム																	●
2 カイツブリ				●		●		●			●						
3 オオミズナギドリ																	●
4 ヒメクロウミツバメ																	●
5 カワウ				●		●					●						
6 ウミウ												●		●	●		
7 ミソゴイ																	●
8 ゴイサギ	●																
9 ササゴイ					●												
10 アマサギ					●						●						●
11 ダイサギ		●			●	●		●	●	●	●						
12 チュウサギ		●								●	●						●
13 コサギ					●			●		●	●						●
14 クロサギ																	●
15 アオサギ	●			●	●	●		●	●	●	●			●	●	●	●
16 カルガモ		●			●			●								●	
17 コガモ					●		●	●									
18 ヒドリガモ							●	●			●						
19 ミサゴ		●			●	●		●		●	●				●		●
20 ハチクマ																	
21 トビ			●		●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
22 オオタカ			●						●								
23 アカハラダカ												●	●	●			
24 ハイタカ				●		●		●			●		●	●			●
25 ノスリ		●		●							●	●	●	●			●
26 サシバ				●			●					●	●	●			●
27 ハヤブサ						●		●				●	●		●		●
28 チゴハヤブサ												●					
29 キジ														●			
30 バン								●						●			
31 コチドリ				●				●									
32 ハマシギ									●								
33 アオアシシギ																	●
34 クサシギ					●												●
35 イソシギ								●			●						
36 チュウシャクシギ																	●
37 タシギ					●												
38 セグロカモメ									●						●		●
39 ウミネコ										●					●		●
40 カンムリウミスズメ																	●
41 カラスバト												●	●	●			●
42 キジバト	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
43 カッコウ												●	●				
44 ツツドリ												●					
45 ホトギス	●	●	●			●	●										
46 リュウキュウコノハズク																	●
47 フクロウ			●	●													
48 ハリオアマツバメ												●					
49 アマツバメ			●											●			●
50 カワセミ	●	●			●			●		●							●
51 ヤツガシラ																	●
52 アオゲラ	●	●	●	●			●		●					●	●	●	
53 コゲラ	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
54 ヒバリ				●	●	●		●		●							
55 ツバメ	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
56 コシアカツバメ															●		
57 イワツバメ			●	●				●			●			●		●	
58 キセキレイ		●	●	●	●			●	●		●			●			●
59 ハクセキレイ					●			●	●	●	●				●		●
60 セグロセキレイ				●	●			●	●	●	●						
61 マミジロタヒバリ								●	●								●
62 コマミジロタヒバリ?											●						
63 ビンズイ		●										●					●
64 ムネアカタヒバリ																	●
65 タヒバリ								●									●

表6-2 重点調査地域調査結果（その2）

	調 査 地 域																
	城山	武丸	名残	許斐山	釣川中流(上)	多礼	孔大寺山	釣川中流(下)	樽見川	さつき松原	釣川下流	遠見山	御嶽	大島北西	草崎半島	吉田	沖ノ島
66	サンショウクイ					●			●					●			●
67	ヒヨドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
68	モズ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
69	ミソサザイ	●	●		●							●	●	●			
70	コマドリ						●										
71	シマゴマ																●
72	ノゴマ													●			●
73	コルリ													●			●
74	ルリビタキ						●					●					
75	ジョウビタキ				●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	
76	ノビタキ				●			●		●	●			●			
77	インヒヨドリ									●	●			●	●		●
78	トラツグミ			●			●										
79	マミジロ						●										
80	クロツグミ			●			●							●			●
81	アカハラ	●										●					
82	シロハラ	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
83	マミチャジナイ	●		●			●	●	●	●	●	●	●	●			
84	ツグミ			●	●	●	●	●				●				●	
85	ヤブサメ	●	●	●	●		●							●		●	●
86	ウグイス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
87	ウチヤマセンニュー																●
88	コヨシキリ																●
89	オオヨシキリ										●						
90	メボソムシクイ	●					●		●			●					
91	センダイムシクイ													●			●
92	ウスリームシクイ																●
93	エゾムシクイ					●						●					●
94	クイタダキ	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
95	セツカ		●		●			●		●							
96	キビタキ	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●				●
97	オオルリ	●			●				●			●					
98	エゾビタキ								●		●	●					
99	コサメビタキ											●					●
100	サンコウチョウ	●	●														
101	エナガ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
102	ヤマガラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
103	シジュウカラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
104	メジロ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
105	ホオジロ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
106	コホオアカ																●
107	キマユホオジロ																●
108	カシラダカ				●	●	●				●			●			
109	ミヤマホオジロ			●		●	●	●	●		●			●		●	
110	シマアオジ																●
111	アオジ	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
112	クロジ	●		●			●	●	●			●				●	
113	アトリ						●							●			●
114	カワラヒワ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
115	マヒワ						●		●					●			●
116	ウソ											●		●			
117	イカル			●				●						●			
118	シメ										●						
119	スズメ		●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●
120	ムクドリ				●	●		●		●					●		
121	カケス		●				●										
122	カササギ										●						
123	ミヤマガラス				●												
124	ハシボソガラス		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
125	ハシブトガラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	125種	31	32	32	40	34	37	41	38	34	38	40	36	46	30	28	60
帰化鳥	コジュケイ		●		●				●			●					
	ドバト							●									
	ガビチョウ		●	●	●		●	●	●								
	ソウシチョウ	●			●		●	●	●							●	